

コウヨウザン植林地からの種子採種について

林業技術センター 林業研究部 坂田 勉

種子の成熟時期調査の結果

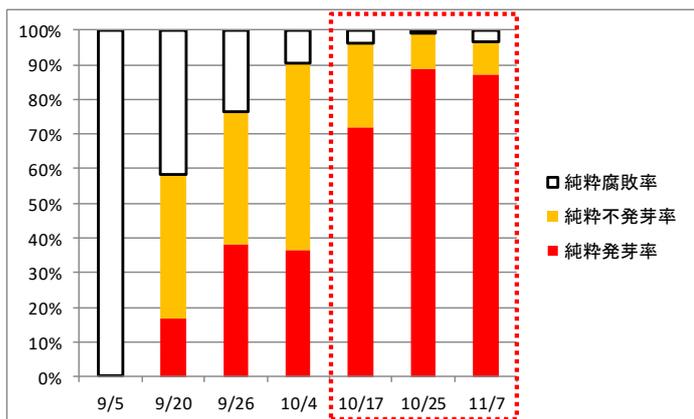


図1 採種時期別の種子成熟調査結果 (2019年)

- 種子成熟調査用球果の採取は庄原市川北町にあるコウヨウザン林内に採種木を決めて、8月中旬から11月中旬までの間、定期的に球果を採取して冷蔵保存し、12月頃に種子を脱粒して発芽試験と不発芽原因調査を実施しました。
- 調査は2018年から2020年の3か年行いました。
- 結果は図1に示すように種子は10月中旬以降に成熟して純粋発芽率が7割以上になりました。
- この傾向は3年間共に同様で、コウヨウザンの種子採種用採果時期は10月中旬以降が良いことが分かりました。

注：純粋発芽率はシイナ、シブタネを除いた計算値

採種の実施と貯蔵試験結果

写真1 シードトラップ設置状況



表1 種子採種の結果

	2018年度	2019年度	2020年度
トラップ設置数	16	36	51
種子採取総量(g)	414	2,700	1,061
種子数(粒)	64,688	421,875	165,786
得苗見込み数*(本)	9,315	60,750	23,873

*: 発芽率24%, 得苗率60%での概算本数。

- 庄原市のコウヨウザン林内内でシードトラップを用いた種子採種試験を行いました。
- シードトラップは縦1m×横4m、深さ約50cmの長方形のものを作成し、林内の大木の根元付近に設置しました。
- 3年間の採種実績は表1のとおりです。2019年は豊作年で2.7kgの種子が採種できました。
- 採種した種子はごみを取除いて乾燥した後、保存試験を実施しています。この途中結果を図2に示します。(粗選は種子精選機で簡易にごみを取除いた粗選別種子です。)
- また、写真2にシードトラップに入っていたコウヨウザン球果由来物を紹介します。場所によっては種子の他にムササビの落とし物として球果や食べかす、糞などが入っていました。ムササビは球果が多く着いた木に居るようで、ムササビの落とし物は種子落下が多い場所の目安となりました。

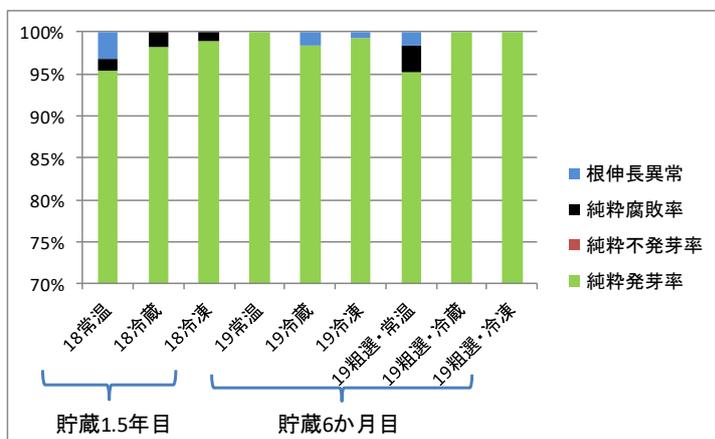


図2 貯蔵試験の結果

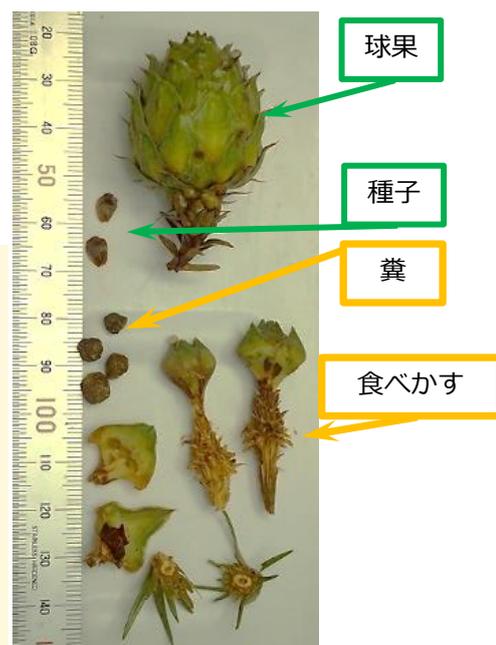


写真2 シードトラップに入っていた種子とムササビの食べかす等